

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年5月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100986		
法人名	医療法人 正信会		
事業所名	グループホーム なのはな	ユニット名	1の館
所在地	〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町4708-41		
自己評価作成日	平成27年11月21日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873100986-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年1月22日	評価機関 決済日	平成28年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな環境と自然に囲まれて 毎日が穏やかに過ごす事が出来る様に支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は畑に囲まれた自然豊かな環境に立地し、各ユニットには日差しがたっぷり注がれている。
利用者は自家菜園で栽培したじゃが芋やさつま芋掘りを行い、食材やおやつに取り入れるほか、町の文化祭に習字や折り紙作品などを出展し、職員と一緒に観に行くことが楽しみとなっている。
昨年10月より月1回、移動売店の利用を開始しており、利用者は能力に応じて自分でお金を支払いながら、思い思いの買い物を楽しんでいる。
代表者の「利用者に美味しい食事を提供したい」との思いから米にはこだわりがあり、契約農家より購入して提供していることから、利用者にとって食事が楽しみとなっており、殆どの利用者が食事を残さず食べ、中には白髪が黒髪に変わってきた利用者もいるほどである。
運営母体が病院であることから、利用者や家族等の安心につながっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「出来る事は見守り、出来ない事はともにささえあって、地域の中で穏やかに日々を過ごせるよう支援する」の理念を心がけ、実践に努めています	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、各ユニットの居間と事務室に掲示するとともに、各ユニットの朝礼時と月1回の全体ミーティングで話し合い、全職員で共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	鯉淵小学校の課外授業や 内原中学校の職場体験の受け入れ。または、地域の文化祭への作品の展示や見学に行き、交流に努めています	町の文化祭に、習字や折り紙作品などの利用者の作品を出展したり、事業所の納涼祭や運動会に運営推進会議の委員や地域住民が参加するなど、積極的に地域との交流を図っている。 踊りや腹話術などの地域ボランティアのほか、小学校の課外授業や中学校の体験学習を受け入れ、事業所自体が地域の一員として交流している。 事業所は「こども110番の家」として地域の子どもへの安全に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアさんの行事参加の協力依頼文化祭の参加等により 地域の方々への理解を頂いていると思います		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見を参考に出来る事から取り組み 介護の質の向上に努めています	運営推進会議は市職員や家族等の代表、近隣住民を委員として2ヶ月に1回開催している。 事業所からは利用者の状況や行事、外部評価で明らかになった課題などを報告し、市職員からは介護保険や地域の行事などの情報を得るほか、感染症対策について話し合うなど、意見交換を行って運営に反映している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者との連絡を密に取れるようまた研修会等に参加して、連携を取れる様に努めています	管理者は市担当者に電話やファックスで毎月の利用状況報告をしているほか、事業所の取組みに関する相談などがあれば市に出向いて担当者と意見交換を行うなど、協力関係を築いている。 地域包括支援センターとは空き状況に関する情報交換を行っている。 市から派遣される介護相談員の来訪時には、意見交換をして情報の共有を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、危険のおそれがある場合のみ、家族と話し合いながら行っていますが経過観察や検討を行い、記録しています。玄関の施錠は行っていますが、声掛けや見守りを行う事で、身体拘束が無い介護に取り組んでいます。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成し、身体拘束となる具体的な行為を記載しているが、言葉による拘束に関する記載がないほか、内部研修を行うまでには至っていない。 現在やむを得ず身体拘束が必要な利用者があり、家族等に説明して書面にて同意を得るとともに、職員で話し合いを繰り返し、「経過観察記録」や「再検討記録」に残して解除に向け取り組んでいる。 玄関は施錠しているが、午前中は職員と一緒に外のベンチでお茶を飲んだりしている。	身体拘束には言葉の拘束も含まれることを念頭におき、マニュアルに取り入れて内部研修を行うことにより、全職員が身体拘束を正しく理解することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に、虐待が無いか話し合い各職員が意識できるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護の制度を利用している人が居ます。行政や関係機関と話し合いながら、活用し、支援しています		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と、理解・納得を頂いてから 利用開始としています	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をし、ご家族来所時に意見交換をしたり、利用者様との会話の時間を持つようにして、意見を吸い上げ、反映するようにしています		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の代表者会議に参加する事で、職員の意見や状況を報告するなどをして、意見を述べています	管理者は月1回開催する法人内の代表者会議で、職員の意見や状況を報告している。 管理者は事業所の全体会議や各ユニット会議時に、職員の意見や要望等を聞く機会を設けるとともに、日常業務の中でも意見を言い易い関係づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の人には、土日の休暇や行事等には休暇が摂れる様に配慮され、各職員の希望休暇もシフト表に組み入れています。 各職員の連携が計れ、助け合って仕事が出来る様に努めています	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時、研修報告をしていた だき、回覧する事で職員間の共有を はかっています。 自主研修にも参 加出来る様に配慮されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域での研修に参加する事で、他の 施設の 職員と情報を交換しています		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様から、なるべく沢 山の情報を得る様お話しをしながら、生活での不安や身体の状態を把握し、不安の無い生活が出来る様関わりを持って援助しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とのお話し合いの中で、心配な事や不安な事、困っている事などを十分に伺い 要望等に答えられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人様の希望を伺い、ニーズに応じたサービスが出来る様、対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることはしていただき、出来ない事は共にするようにしながら、話相手となりよい関係が出来る様につめています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを伝えたり、外出の依頼をしたりして、良い関係が出来る様に努めています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて電話の連絡や、面会・外出・外泊などが出来る様に支援しています。	利用者の家族等や親戚が来訪した際には、お茶を出してゆっくり話ができるよう配慮している。 利用者の希望があれば、家族等に連絡をして一緒に外出や外泊ができるよう支援するほか、事業所内の公衆電話を利用して家族等に電話をかけたり、手紙を投函するなど、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	車椅子を押すことや出来る事をお願いをしたり、文化祭の作品作りに参加する事等で、お互いのかかわり合いが持てる様に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了は長期療養か死亡のため、退居後の相談支援はありません。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意見を聞く事で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。	職員は日常の会話の中で希望や意向を聴き、買い物や墓参りに行きたいなどの希望があれば家族等に連絡し、希望が叶うよう支援しているが、個人記録に利用者の思いや意向の記載がない。 思いが表出できない利用者場合は、家族等から話しを聴いたり、表情や仕草などから思いを汲み取るように努め、利用者本位に検討している。	個人記録に利用者のつぶやきや仕草などから得た思い等を残し、必要時は振り返りながら職員間で共有することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から情報を聞いたりして、これまでの生活の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩をしたり、手すりに掴まって足の運動をしたり、俳句を考えるなどで、心身の状態の現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で話し合い、家族や本人の意向に沿って計画を作成するように努めています。	介護計画は利用者や家族等の希望にそって職員間で話し合い、計画作成担当者が作成している。 長期計画は1年、短期計画は6ヶ月とし、モニタリングは3ヶ月毎に行っている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人の記録に記入、申し送りなどで職員間で情報を共有する事で、反映出来る様に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	其の時々家族や本人と話し合い、必要なサービスが出来る様に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際にボランティアの協力を頂く事や、文化祭の作品を発表する事で、楽しみ事のある生活が出来る様に支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医に受診の際には、家族に依頼し、情報の共有や、外出の支援をしています。希望等が無い場合は、協力医療機関の受診を援助しています。	利用者や家族等が希望する担当医をかかりつけ医としている。 職員は2週間に1回協力医療機関への受診介助を行っているが、かかりつけ医への受診は家族等の協力を得ている。 協力医療機関の医師による訪問診療が2週間に1回、看護師による健康チェックが週1回あり、受診結果等は記録に残して全職員で共有するとともに、変化があった場合には家族等に連絡している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何時もと違う事や様子には、看護師に相談し要観察や医師受診などの支援をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が不安に思うことがなく療養出来る様に、情報の提供を行い、早めの退院出来る様に主治医、看護師と相談しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護はしていませんが、主治医や看護師・家族と相談しながら支援をしています。	看取り介護は基本的に行わない方針であり、重度化や看取りに関する説明及び同意書を作成して入居時に家族等に説明し、同意を得ている。 利用者が重度化した場合は、利用者や家族等の意向を尊重しながら医療機関と連携を図り、食事が摂れない段階になったら入院ができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルで、各職員が対応出来る様にしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域の方との交流を大切にする事で、協力体制が出来る様に努めています。	消防署立ち会いを含めた総合避難訓練や、夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施し、訓練で明らかになった課題を記録に残すとともに、職員間で話合って次回の訓練に活かしている。 近隣住民に避難訓練の参加を呼びかけているが、参加を得るまでには至っていない。 災害に備え、飲料水や米、パン、電池、毛布などを備蓄し、一覧表を作成して定期的に点検している。	事業所の行事を利用して、避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう呼びかけるなど、取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応に心がけて支援しています	利用者一人ひとりの人格を尊重した対応に努めており、排泄時にさりげない言葉かけを行い、入浴介助時には誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚と各ユニットの押し入れの棚に保管し、情報の漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒にお茶をしたり、おしゃべりをする事で希望や思いを話すことが出来る様に支援しています。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし、その人らしい暮らしが出来る様に支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容サービスで、希望の髪型にカットしています。 身だしなみも、本人の好みを大切にした支援をしています。	/		/

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食卓を囲む事や個人に応じた調理で、楽しく食べる事が出来る様に努めています。下膳やテーブル拭き等出来る事はお願いしています。	献立は運営母体の病院の管理栄養士が利用者の要望を取り入れて作成し、苦手な食品の場合には代替食を提供するなど、柔軟に対応している。雑祭りや七夕、クリスマスなどの行事食のほか、さつま芋や栗など季節の食材を取り入れるほか、職員が手作りした糠漬けなどを加え、食事が楽しめるよう工夫している。職員は利用者と一緒に会話を楽しみながら同じ食事を摂り、利用者は能力に応じて下膳やテーブル拭き、食器洗いなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で調理し、食事や水分がキッチンと取る事が出来る様に支援しています。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行ないませんが、特に夕食後のケアに力を入れて、一人ひとりの状態や本人の力に応じたケアに努めています。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各個人の排泄パターンに応じて誘導したり夜間はポータブルトイレを使用するなどしなるべくトイレでの排泄が出来る様に努めています。	職員は排泄チェック表を基に、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らいながら声かけやトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを利用するなど、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援しており、失禁する回数が軽減した利用者がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取る事や運動を勧め、便秘解消に努めています。 頑固な便秘には看護師や医師に相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	決められた時間での入浴ではありませんが、できるだけ希望に応じた入浴が出来る様に支援しています。	各ユニット毎に曜日を決めて、週2回午前中の中の入浴を基本としているが、利用者の体調や状態に応じてシャワー浴などの対応をしている。 入浴を拒む利用者には、声かけのタイミングを見計らいながら無理のないよう促している。 柚子湯や菖蒲湯などで、季節感を感じながら寛いで入浴ができるよう配慮するとともに、入浴後に竹仙水を薄めて身体に塗り、皮膚疾患予防に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に静かに休息が出来る様にしたたり、其の日の体調に応じて何時でも休む事が出来る様にしていますが、日中の過ごし方で夜間良眠出来る様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の効用や副作用、服用量を理解して、誤薬の無い様に職員間共有して、利用者の変化の確認にも努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る事をお願いしたりして、役割を持てる様に支援して、趣味としている事も出来る様に支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外気浴や散歩などが出来る様になっています。家族の支援で、出かける事が出来る様に援助しています	天気の良い日は、職員と一緒に外気浴を兼ねて事業所の庭の散歩をしている。隣接する小規模多機能型居宅介護事業所の公用車を利用して、毎年町の文化祭に出店した利用者の作品を観に行ったり、花見や紅葉狩り、ドライブなどに出かけることが利用者の楽しみとなっている。家族等の協力を得て、利用者が外出や自宅への外泊、墓参りが出来るよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、外出時や施設内の自販機で好きなものを購入しています。お預りしている方も、毎月の移動販売日に好きなものを購入出来る様支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しています。自由に使用しており、出来ない方の援助も行なっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる事が出来る様な飾りつけや花を植えたりしています。テレビの音や話し声の大きさにも注意しています。混乱の無い様に目印を置く事もあります。	共同空間は十分な採光があり、温度や湿度管理により快適に過ごせるよう配慮している。玄関や居間、廊下の壁には、利用者が町の文化祭に出展した習字や職員と一緒に制作した貼り絵、行事の写真のほか、正月の手作り凧やクレヨンで描いた絵の飾り付けにより和やかに過ごせるよう工夫している。廊下や居間にソファを配置したり、居間の一角に和室を設置して、利用者が何時でも寛げるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロアにソファを、玄関先にはベンチを置き、好きな場所で過ごす事が出来る様 支援しています	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きなものなどを置くなど、自由に使用しています。 家族の写真や、位牌などを置いている人も居ます。	居室にはエアコンやベッド、洗面台、整理箆筒、テーブルが備えられている。 利用者は観葉植物や使い慣れた時計、ぬいぐるみ、家族等の写真、位牌、手作り作品などを自由に持ち込み、思い思いの部屋づくりをして居心地良く暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、段差が無い事で自立した生活出来る様にしています。 場所の混乱が無い様に目印となる様なものを飾ったり、夜間トイレの明かりは消さない事としています。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが ○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなのはな

作成日 平成28年6月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束には言葉の拘束も含まれることを念頭に置き、全職員が身体拘束を正しく理解してゆく。	言葉による身体拘束も含めて、職員全員が身体拘束の理解をする。	言葉を含めた身体拘束について、ミーティングで話し合い理解を深め、今後のケアにいかし、実践してゆく。 マニュアルにも取り込む	3か月
2	23	利用者、一人ひとりの思いや希望を把握してゆく。	利用者のつぶやきの中から意向を把握し、職員間で共有し、支援につなげていく。	個人記録に、利用者の言われた事や、職員の声掛けに対して言われた事を記録に残し、共有する事で把握に努め支援につなげてゆく。	3か月
3	35	避難訓練に参加を呼び掛けているが、参加を得るまでには至っていない。	避難訓練時には、近隣の方の参加を得る事ができる。	年2回の避難訓練時には地域の方の参加が得られるよう、運営推進会議などを通じ参加を呼び掛る。	6か月
4	10	事業所独自の無記名のアンケートを実施しサービスの向上を図る。	無記名のアンケートを実施することによって家族の意見、要望を参考にし、ホームの運営に反映できる。	年内に無記名のアンケートを実施します。	年内
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。